

経営比較分析表（平成28年度決算）

千葉県 香取市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	55.13	70.44	4,644	

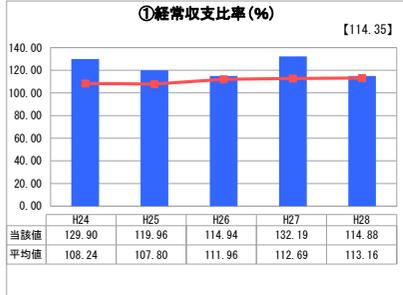
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
78,982	262.35	301.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
55,353	171.19	323.34

グラフ凡例

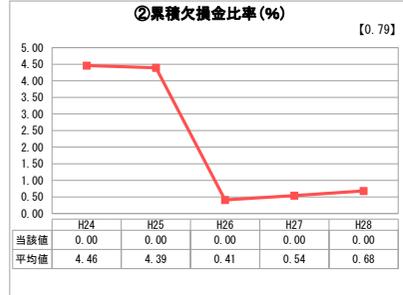
- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 平成28年度全国平均

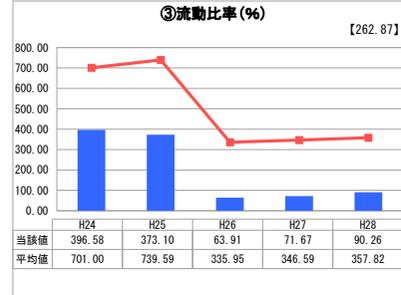
1. 経営の健全性・効率性



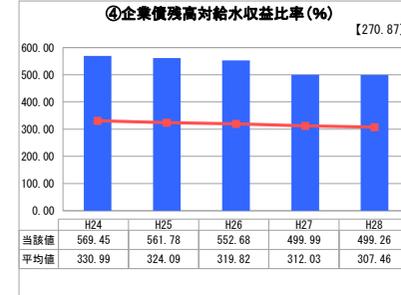
「経常損益」



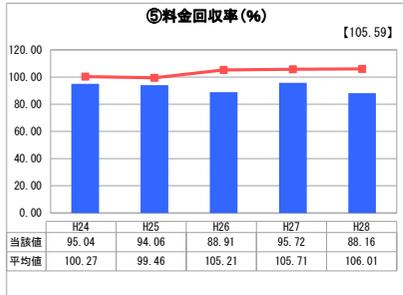
「累積欠損」



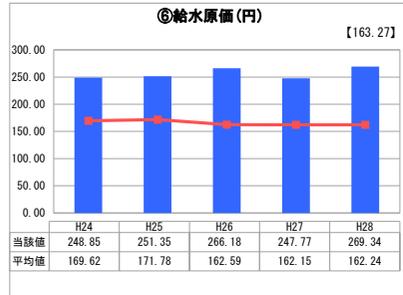
「支払能力」



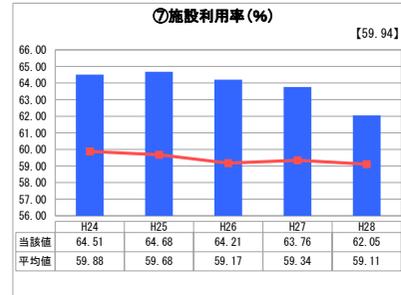
「債務残高」



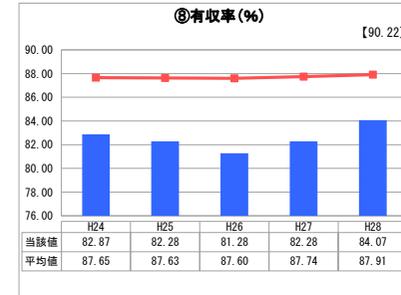
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

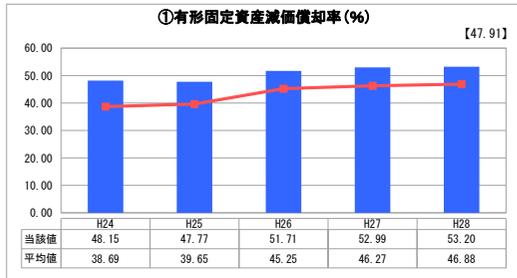


「施設の効率性」

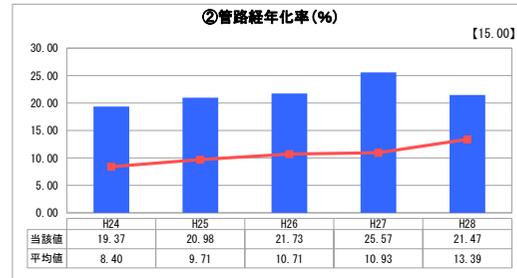


「供給した配水量の効率性」

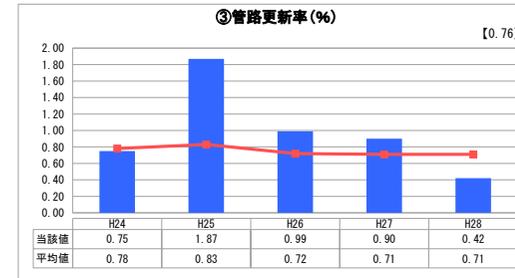
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率①は、平均値を若干上回った状況で下降気味となっており、料金回収率⑤も前年度よりも減少し依然100%を下回っている状態であるため繰出金等の外部資金に依存した体質となっている。また、新会計制度に移行後の流動比率③の数値が、平均値及び100%を大きく下回っているのは、企業債残高対給水収益比率④の数値が、平均値よりも大幅に悪いことが大きく影響している。このことは、適正な設備投資（規模）に無いとも言え、また、適正な給水収益となっていないため、平成30年度に料金改定の検討を予定している。企業債残高対給水収益比率④については、拡張事業における施設及び管路の増設及び既設老朽管の布設替事業における起債借入のため高い状態となっている。施設利用率⑦は平均より良いものの、年々減少傾向にあり、有収率⑧が平均値を下回っているため給水原価⑥の数値が高い一因ともなっている。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化を示す指標は、①、②とも、平均値を上回る結果となっており、毎年管路の更新は進めているところであるが、布設替が必要な管路がまだ多く、当市の施設の老朽化が進んでいることを示している。
当市は、東日本大震災による甚大な被害を被っていることから、管路更新率③は、本格的な復旧が進んだH24以降、平均値を上回っていたが、新設管路整備の実施により布設替が減少した結果、更新延長が減少した状況となった。

全体総括

流動比率が低いことや、企業債残高対給水収益比率が高いこと、施設の老朽化が進んでいることから、今後の施設更新の財源の確保や短期流動性を高めるため、適正な水道料金の見直しが必要となり、平成30年度に料金改定の検討を予定している。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。